

目標を明確に立て 有意義な春休みに

長万部小学校 主幹教諭 落合 太

いよいよ残り数週間で平成29年度が終了し、各学校では、約2週間程度の年度末・年度始休業に入ります。2月13日～2月23日の期間には、町内の小・中・高合同で家庭学習強調週間Ⅲ期を実施いたしました。「普段よりも頑張っていた」「続けられるようになってきた」など成果が上がっている様子が見られます。ぜひ、これからの学校生活、又は休み中もそれぞれの目標をしっかりと持って継続して取り組んでほしいと願っております。

さて、春休みは、長期休業の中で一番達成感・開放感がある休みともいえるかもしれません。それは、年度替わりという時期的な要因が大きく関係しています。つまり、小学校を卒業した子供たちは、小学生なのか中学生なのか今一つははっきり自覚できないなど、進級するどの子にも少なからず当てはまるものと思われます。開放感や気の緩み、油断等が原因となって引き起こす事故や非行などは避けなくてはいけません。ここでは、春休みを有意義なものにする方法について考えてみたいと思います。

大切なことは、新しい学年の目標を考えさせることです。日本では、古来から「節目」を大事に考えてきました。すなわち「節目」を意識することは、所作だけにとどまらず人間が生き残る姿勢や暮らし方においても、日本人が大切にしてきたことの1つです。日本人が大切にしてきた節目の概念は、実は人生や生活を豊かにするためのエッセンスだと言われております。

よって、節目とは、すなわち物事の区切り目のことで、私たちの生活の中にはいろいろな節目があります。学校生活においては、元旦と並んで大きな節目が新年度の始まりです。特に、入学を控えている場合は、これ以上大きな節目はないといってもいいくらいですし、進級も同様に考えることができます。3月までの活動やがんばりが一区切りを迎え、4月からは、様々なことが新しくなります。つまり、一度気持ちをリセットして物事に向かう、挑戦するといった気持ちが整うのです。このことを表す私の大好きな「負けじ魂」という言葉があります。

ですから、この1年をどんな年にしたいのか、何をがんばるかという具体的な目標を考えるのに、春休みは絶好のチャンス、機会であると私は強く思います。さらに、もう一つ大切なことは、目標に向かってほんの少しのスタートを切ることです。しかし、そうは言っても、目標に向けた努力を継続・持続することがどれだけ難しいことかは、自分も含めて皆さんの十分ご承知のことと思います。そこで、「目標に向かって歩き続ける3つの方法」として以下の考え方をご紹介します。

- 1 まず、本気で決意をする、誰かに宣言する
- 2 長い目標と短い目標をもつ
- 3 サボったって、また一から始めればよいと思うこと（負けじ魂～決意し直す）

入学とまではいかなくても、子供にとって1つ学年が上がるということは大変大きな出来事です。どの子も、なにかしら、進級に向かって漠然としたうれしい気持ちや希望のようなものを持っています。気持ちが前向きになっている、この時期の子供たちの背中をそっと押してあげるような励ましや意欲付けをご家庭でもお願いできればと思います。